

岡山県感染症週報

2011 年 第 31 週（8 月 1 日～ 8 月 7 日）

岡山県では『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。**◆2011 年 第 31 週（8/1～8/7）の感染症発生動向（届出数）****■全数把握感染症の発生状況**

第 29 週 2 類感染症 結核 3 名（20 代 男 1 名、40 代 女 1 名、90 代 女 1 名）

第 30 週 2 類感染症 結核 1 名（60 代 男）

4 類感染症 レジオネラ症 2 名（50 代 男 1 名、70 代 男 1 名）

第 31 週 2 類感染症 結核 1 名（60 代 男）

3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 4 名

（O157 20 代 女 1 名、O26 幼児 女 2 名・男 1 名）の報告がありました。

■定点把握感染症の発生状況

○手足口病は、第 26 週をピークに減少傾向にあります。今週も減少し、流行は終息に向かっています。

○ヘルパンギーナは、全県では先週より減少しました。しかし、備中地域・美作地域では発生が増加し、岡山市ではひきつづき発生が多く、感染症レベル3 が継続中です。

■【速報】第 32 週 腸管出血性大腸菌感染症 4 名 の発生がありました。

（O157 幼児 女 1 名・20 代 女 1 名・60 代 男 1 名、O26 小学生 女 1 名）

1. 腸管出血性大腸菌感染症は、今年 8 月 11 日までに 41 名の発生がありました。岡山県では**腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令**し、感染予防を呼びかけています。最近の動向については『**今週の注目の感染症**』、県内の発生状況・症状・感染予防などについては、感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中！**』をご覧ください。**2. ヘルパンギーナの定点あたり患者数は、全県では減少しましたが（定点あたり 3.65 → 3.19 人）、備中地域（2.29 人）・美作地域（1.83 人）では発生が増えました。岡山市では減少しましたが（8.50 → 6.07 人）、依然として感染症発生レベル 3 が継続しています。****3. 手足口病の定点あたり患者数は、今週も減少し（定点あたり 2.83 → 2.11 人）、第 26 週をピークに減少がつづいています。全県では大きな流行または発生が継続しつつあると考えられる感染症発生レベル3 が継続していますが、流行は終息に向かっていると思われます。****手足口病、ヘルパンギーナの今週の動向については、『今週の注目感染症』をご覧ください。****4. 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は減少しました（定点あたり 1.70 → 1.44 人）。倉敷市で第 27 週より続いていた感染症発生レベル2 はレベル 1 になりましたが、備中地域では発生が増え（2.57 → 3.43 人）、今後大きな流行が発生する可能性が高いことを示すレベル2 になりました。****流行の推移と発生状況**

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ			RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★★★	流行性耳下腺炎		★★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】

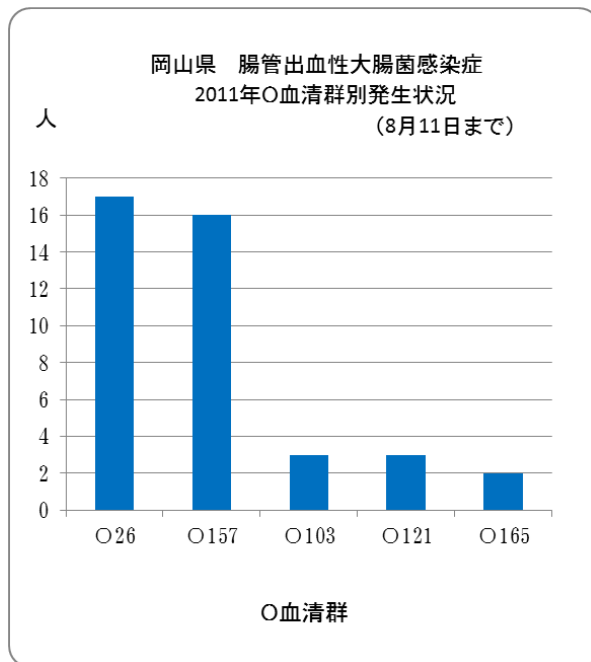
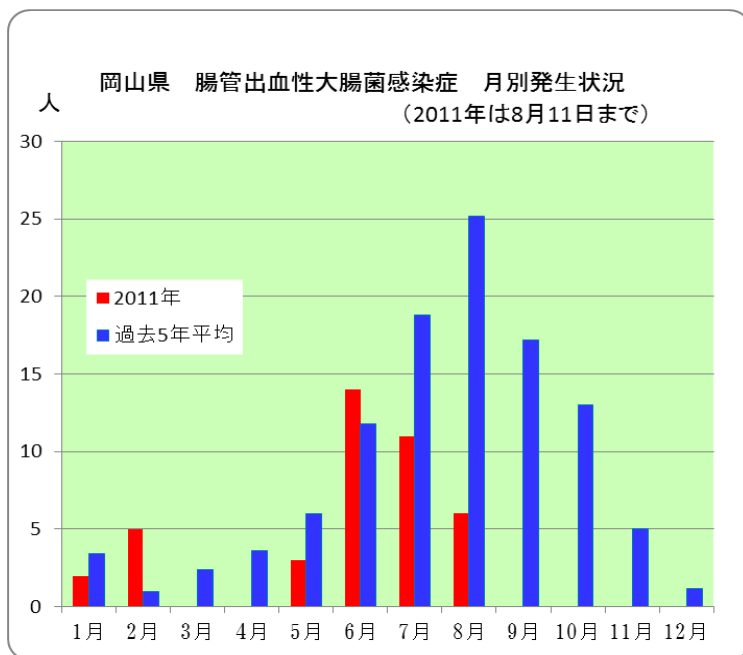
前週からの推移： ↓ 2 倍以上の減少 ↘ 1.1～2 倍未満の減少 → 1.1 未満の増減
↗ 1.1～2 倍未満の増加 ↑ 2 倍以上の増加

流行状況： 空白 発生なし ★僅か ★★少し ★★★やや多い ★★★★多い ★★★★★非常に多い

※定点当たり患者数について、過去5年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を5等分し、流行状況の目安として5段階で表示しています。

今週の注目感染症

1. 腸管出血性大腸菌感染症



腸管出血性大腸菌感染症は、今年8月11日までに41件の発生がありました。

例年8月は1年のうち最も発生が多く、今年も7月下旬から8月上旬（第30～32週）にかけて10件の発生があり、今後も増加が懸念されます。

O血清群別ではO26が17件 41%、O157が16件 39%であり、今年はO26の発生が目立ちます。

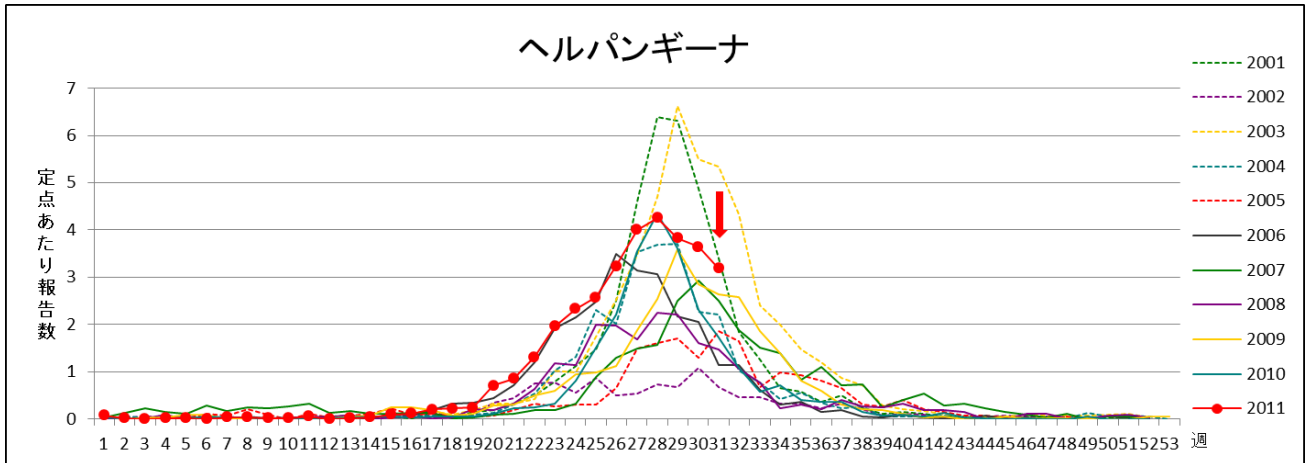
主な症状は、腹痛・水溶性下痢および血便で、嘔吐や38℃台の高熱をとまなうこともあります。

岡山県ではこれまでのところ、腸管出血性大腸菌感染症による死亡例や溶血性尿毒症症候群(HUS)の報告はありませんが、幼児で重症化した症例が報告されています。幼少児・高齢者や、抵抗力の弱いハイリスク・グループでは重症化しやすいので、特に注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症は、通常の食中毒対策を実施することで十分に予防可能です。食中毒予防の三原則は「付けない、増やさない、やっつける」です。食品の取り扱いに注意し、食肉の生食を避ける、食品は加熱してから食べるなど感染予防に努め、安全で楽しい夏を過ごしましょう。

また、腸管出血性大腸菌は少量の菌で感染・発生するため、おむつや便の取り扱いに注意し、家庭内での二次感染にも気をつけましょう。

2. ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナの定点あたり患者報告数は、全県でわずかに減少しました（197 → 172 人 定点あたり 3.65 → 3.19 人）。しかし、岡山市（6.07 人）・倉敷市（4.09 人）ではひきつづき発生が多く、岡山市では県内患者数の 50% を占めており、感染症発生レベル 3 が継続しています。ヘルパンギーナは、7 月上旬に流行のピークになり、その後減少に向かいますが、今年は 8 月上旬としては、いまだ患者数が多い状態です。

ヘルパンギーナは、夏に流行する幼児の急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。患者の年齢は 3 歳以下の幼児が中心で、全体の 70% を占めています。症状は、突然の発熱につづいて咽頭痛が出現し、口腔内に直径 1～2mm の小水疱が出現するのが特徴です。口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、食べ物や水分の摂取ができにくくなり脱水症につながる場合がありますので、8 月の暑い時期は特に注意が必要です。

岡山県ではヘルパンギーナ患者の咽頭拭い液から、**コクサッキーウイルス A6 型**が検出されました。

感染症マップ ヘルパンギーナ 2011 年 31 週



ヘルパンギーナ

レベル		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
6	2		0< 6 未満	0

31 週 8/1～

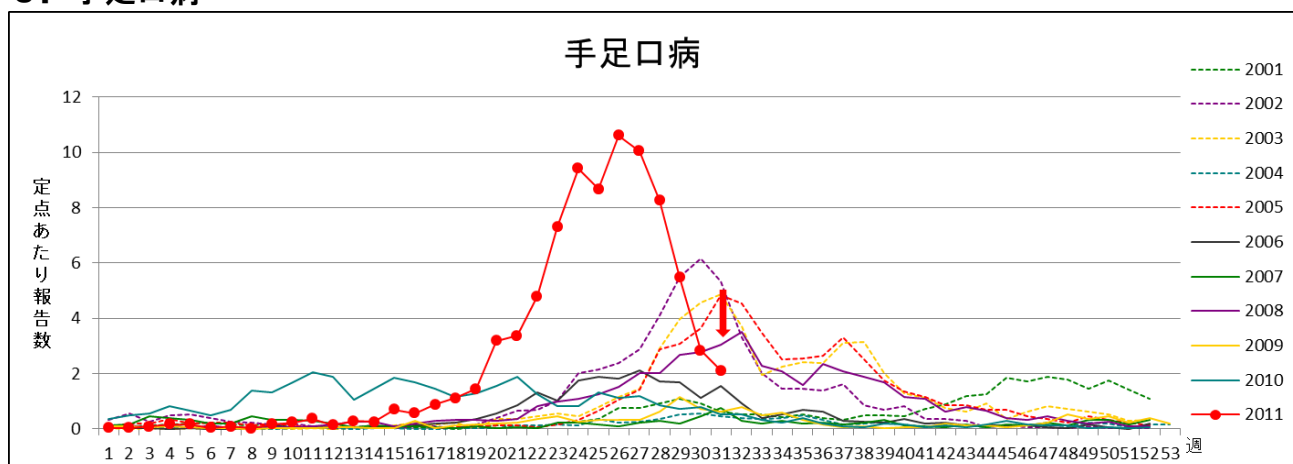
30 週 7/25～

29 週 7/18～

28 週 7/11～



3. 手足口病



手足口病の定点あたり患者数は、今週も減少し（153 → 114 人 定点あたり2.83 → 2.11 人）、第26週をピークに減少がつづいています。倉敷市・真庭・美作・備前・備北地域では感染症発生レベル1になり、流行は終息に向かっているものと思われます。しかし、岡山市（4.14 → 3.29 人）・備中地域（2.14 → 3.29 人）では発生の多い状態がつづいており、全県では感染症発生レベル3が継続中です。ひきつづき感染予防に努めましょう。患者は、3歳以下が70%を占めています。

本年の手足口病は、高熱をとまうことがあり、典型例と比べ発疹が大きく、大腿部・臀部に高頻度に認められ、手・足底には少ない症例が目立っています。患者発生は多いものの、岡山県ではこれまでのところ、無菌性髄膜炎・脳炎などを合併した重症例の報告はありません。

岡山県では手足口病患者の咽頭拭い液13件から、**コクサッキーウイルスA6型**が検出されました。全国的にも手足口病患者から主に、コクサッキーウイルスA6型が検出されています。

国立感染症研究所より、手足口病に続発する爪甲脱落症の注意喚起がされています。コクサッキーウイルスA6型の感染によって手足口病を発症し、治癒してから数週間経過した後に、爪甲が爪床から浮き上がって剥離・脱落する爪甲脱落症が疑われる症例が報告されており、今後、手足口病の流行が終息した後も、留意する必要があります。（[国立感染症研究所 感染症情報センター 週報第28週（全国版）](#)）

感染症マップ 手足口病 2011年31週

31週 8/1～

30週 7/25～

29週 7/18～

28週 7/11～



レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
5	2		0 < 5 未満	0

全国の手足口病、ヘルパンギーナ患者からの検出ウイルスについては、**国立感染症研究所 感染症情報センター 病原微生物検出情報** をご覧ください。

今年のコクサッキーウイルスA6型検出状況 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-tj.html>

2007-2011 の手足口病からの検出ウイルス <https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data37j.pdf>

2007-2011 のヘルパンギーナからの検出ウイルス <https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data38j.pdf>

保健所別報告患者数

において

数字

は感染症マップにおいて レベル3

数字

は感染症マップにおいて レベル2

を示しています

保健所別報告患者数 2011年 31週 (2011/08/01～2011/08/07)

2011年8月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	5	0.09	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	4	0.67
咽頭結膜熱	23	0.43	11	0.79	6	0.55	1	0.10	—	—	—	—	—	—	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	0.26	9	0.64	4	0.36	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
感染性胃腸炎	184	3.41	46	3.29	35	3.18	53	5.30	12	1.71	13	3.25	9	4.50	16	2.67
水痘	22	0.41	12	0.86	6	0.55	2	0.20	—	—	1	0.25	—	—	1	0.17
手足口病	114	2.11	46	3.29	20	1.82	16	1.60	23	3.29	2	0.50	2	1.00	5	0.83
伝染性紅斑	12	0.22	6	0.43	3	0.27	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	1	0.17
突発性発疹	23	0.43	12	0.86	7	0.64	—	—	1	0.14	—	—	—	—	3	0.50
百日咳	3	0.06	1	0.07	2	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	172	3.19	85	6.07	45	4.09	12	1.20	16	2.29	2	0.50	1	0.50	11	1.83
流行性耳下腺炎	78	1.44	22	1.57	19	1.73	6	0.60	24	3.43	5	1.25	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	1	0.25	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	6	1.20	3	3.00	3	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 31週 (2011/08/01～2011/08/07)

2011年8月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	23	0.43	11	0.79	6	0.55	1	0.10	—	—	—	—	—	—	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	0.26	9	0.64	4	0.36	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
感染性胃腸炎	184	3.41	46	3.29	35	3.18	53	5.30	12	1.71	13	3.25	9	4.50	16	2.67
水痘	22	0.41	12	0.86	6	0.55	2	0.20	—	—	1	0.25	—	—	1	0.17
手足口病	114	2.11	46	3.29	20	1.82	16	1.60	23	3.29	2	0.50	2	1.00	5	0.83
伝染性紅斑	12	0.22	6	0.43	3	0.27	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	1	0.17
百日咳	3	0.06	1	0.07	2	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	172	3.19	85	6.07	45	4.09	12	1.20	16	2.29	2	0.50	1	0.50	11	1.83
流行性耳下腺炎	78	1.44	22	1.57	19	1.73	6	0.60	24	3.43	5	1.25	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	1	0.25	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2011年 第31週 2011/08/01～2011/08/07)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	5	-	3	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	23	-	-	6	5	3	2	2	1	-	1	1	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	-	-	-	1	2	2	2	1	2	-	2	-	-
感染性胃腸炎	184	4	20	27	24	17	11	20	7	5	6	7	17	2
水痘	22	-	1	6	6	4	3	-	-	1	-	1	-	-
手足口病	114	4	13	33	18	12	20	6	2	1	1	1	3	-
伝染性紅斑	12	-	1	1	1	1	1	1	-	2	-	1	1	-
突発性発疹	23	1	11	8	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	3	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	172	4	22	42	32	19	16	14	9	5	1	1	6	-
流行性耳下腺炎	78	-	2	7	8	8	20	14	3	6	2	4	2	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-

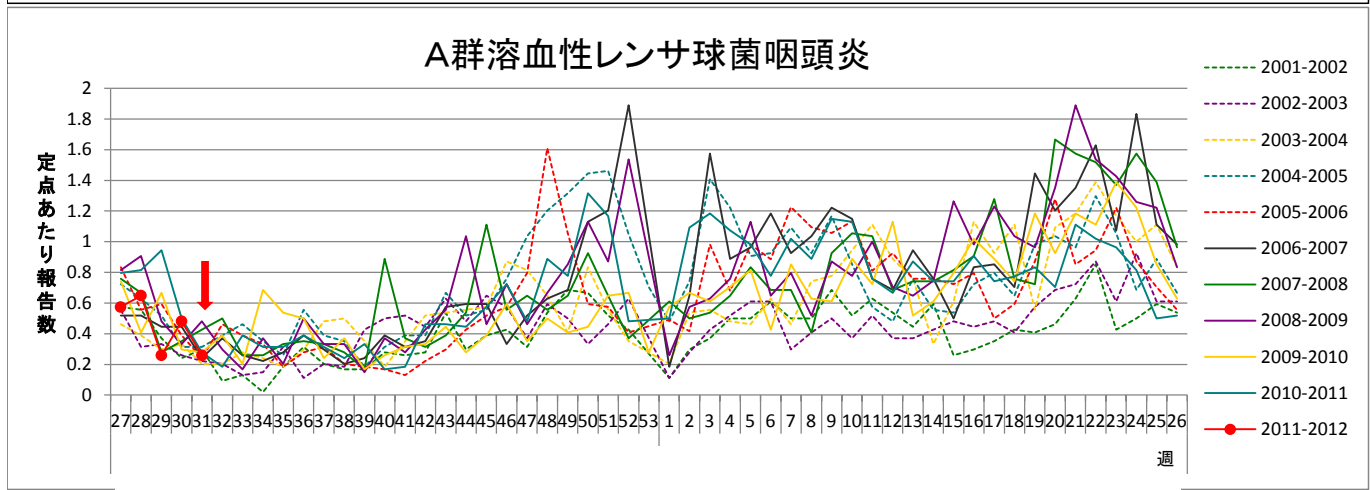
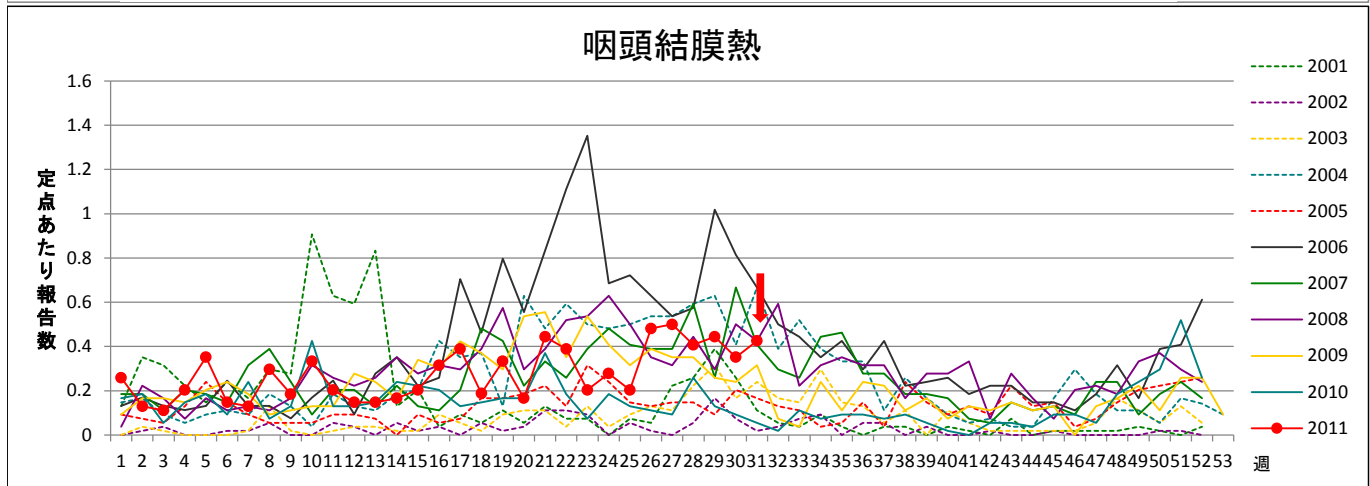
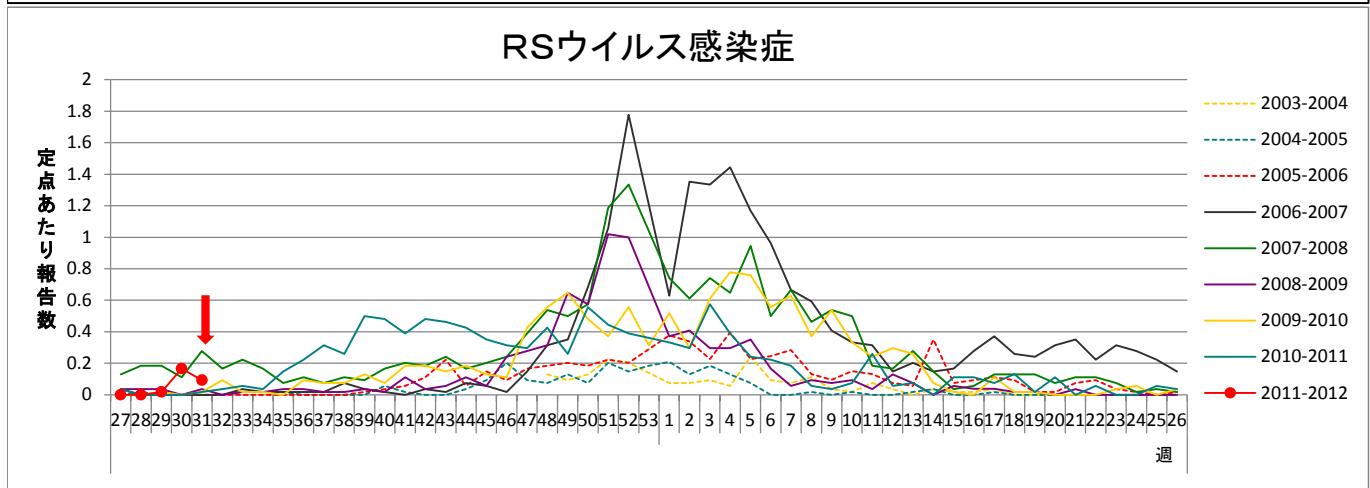
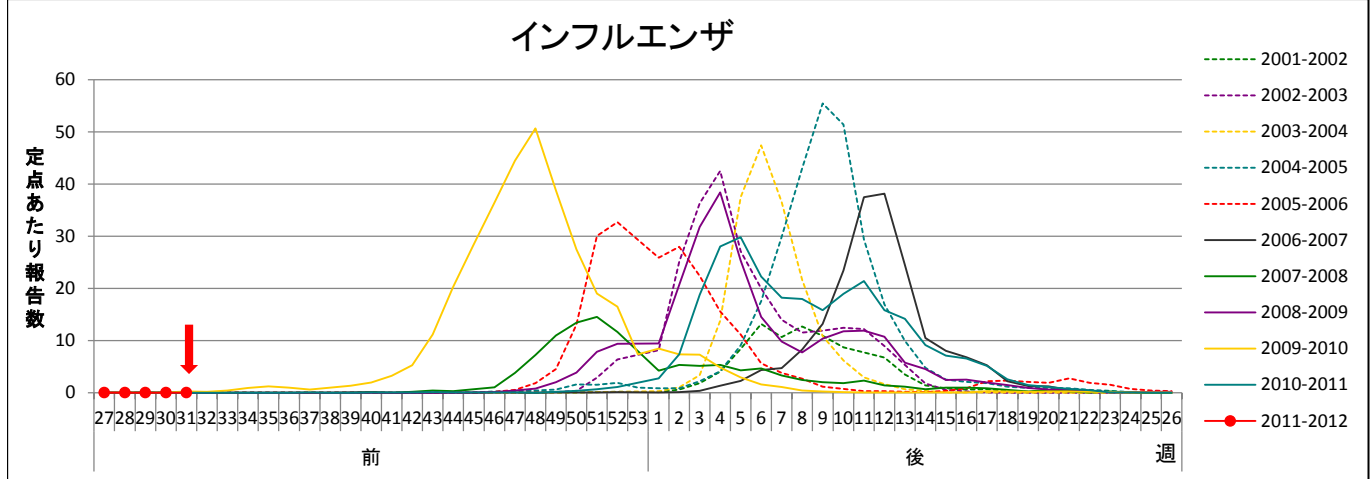
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	-	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

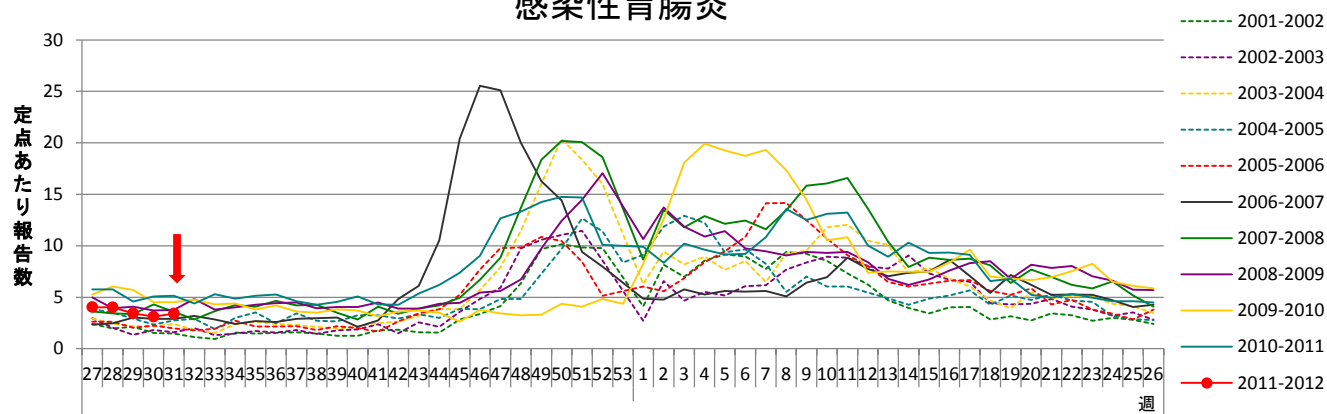
全数把握 感染症患者発生状況

2011 年 31 週

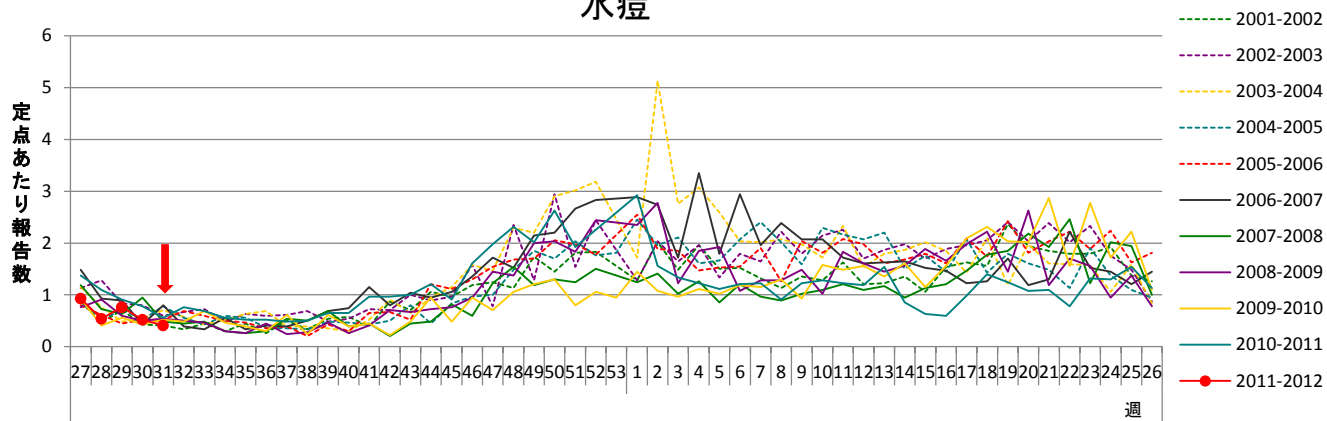
分類	疾病名	2011		2010	疾病名	2011		2010	疾病名	2011		2010
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	276	352	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	32	66
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	2	1	デング熱	-	-	7	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	1	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	11	19	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	6	13	ウイルス性肝炎*3	-	3	7	急性脳炎*4	-	-	1
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	1
	後天性免疫不全症候群	-	4	22	ジアルジア症	-	1	5	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	7	9	破傷風	-	1	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	3	風しん	-	-	2
	麻しん	-	4	3		-	-	-		-	-	-



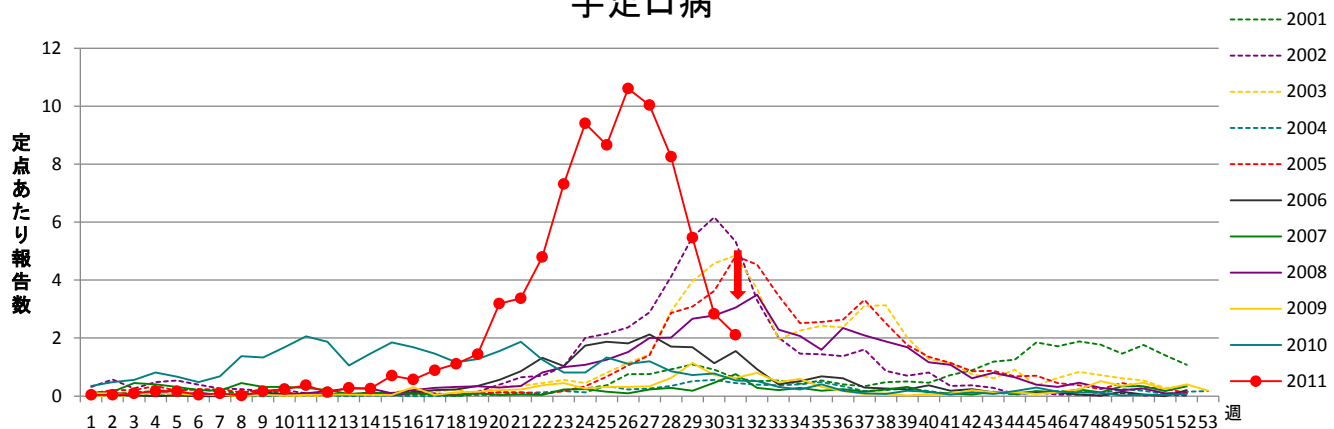
感染性胃腸炎



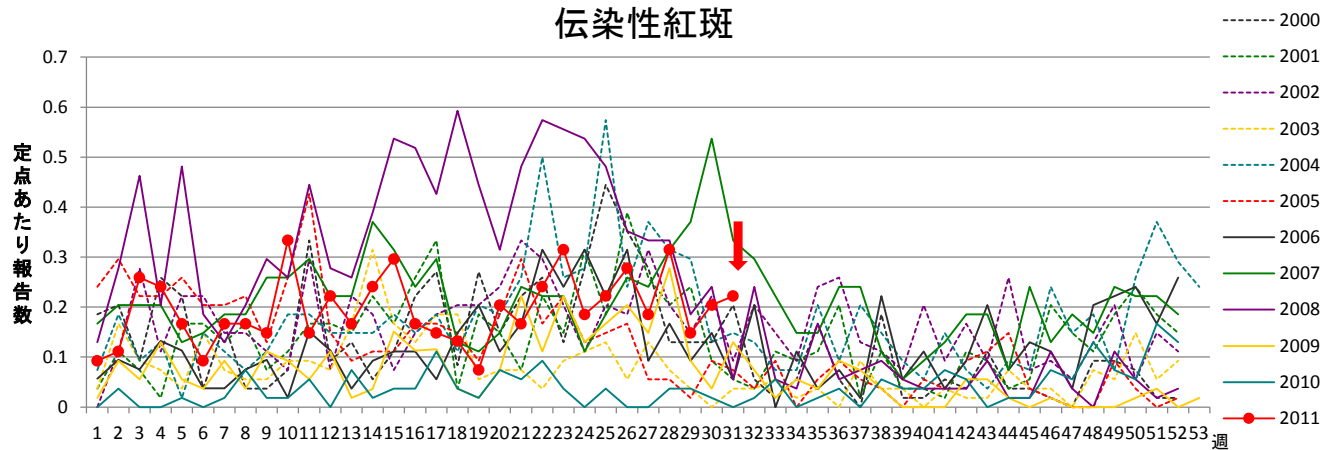
水痘



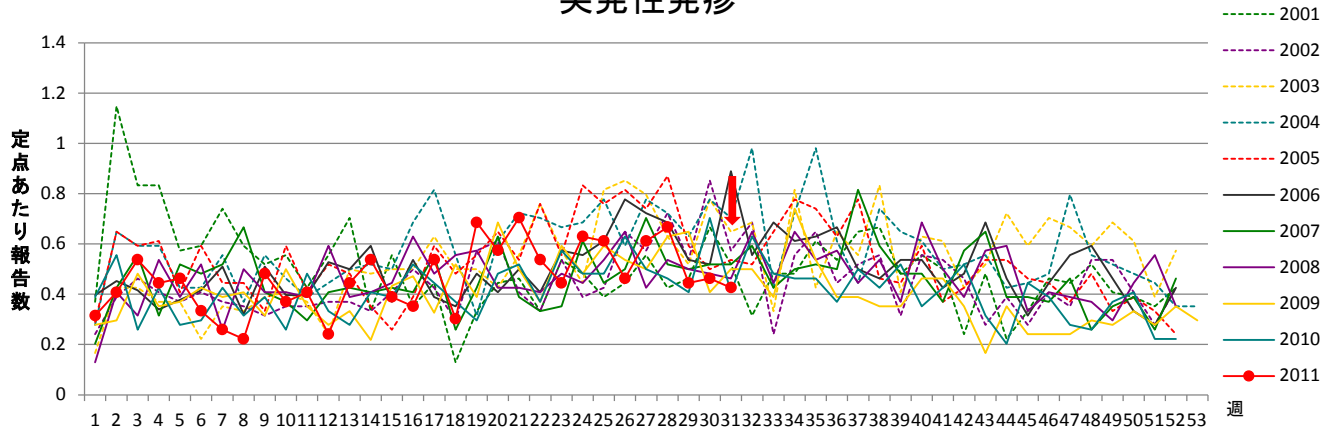
手足口病



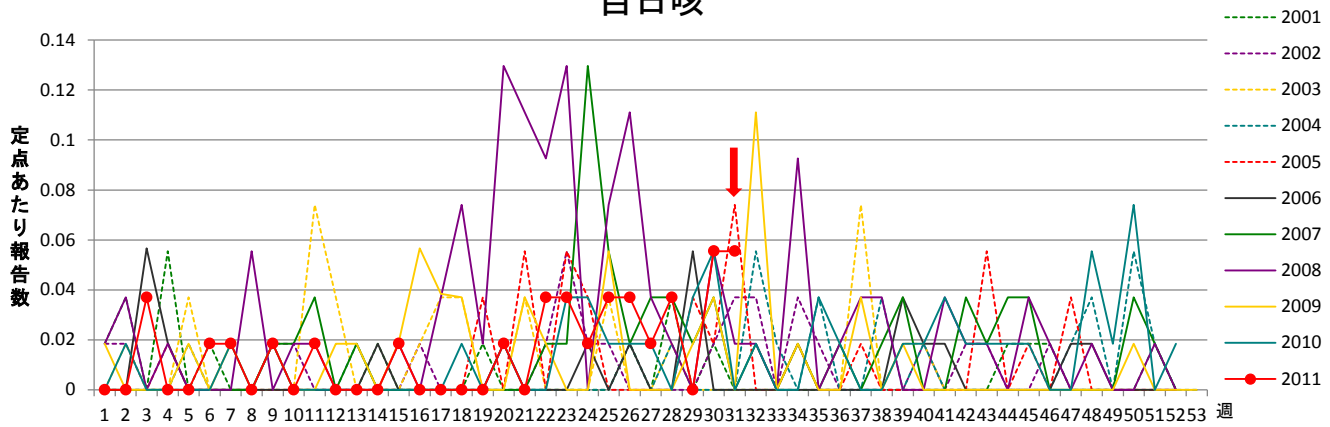
伝染性紅斑



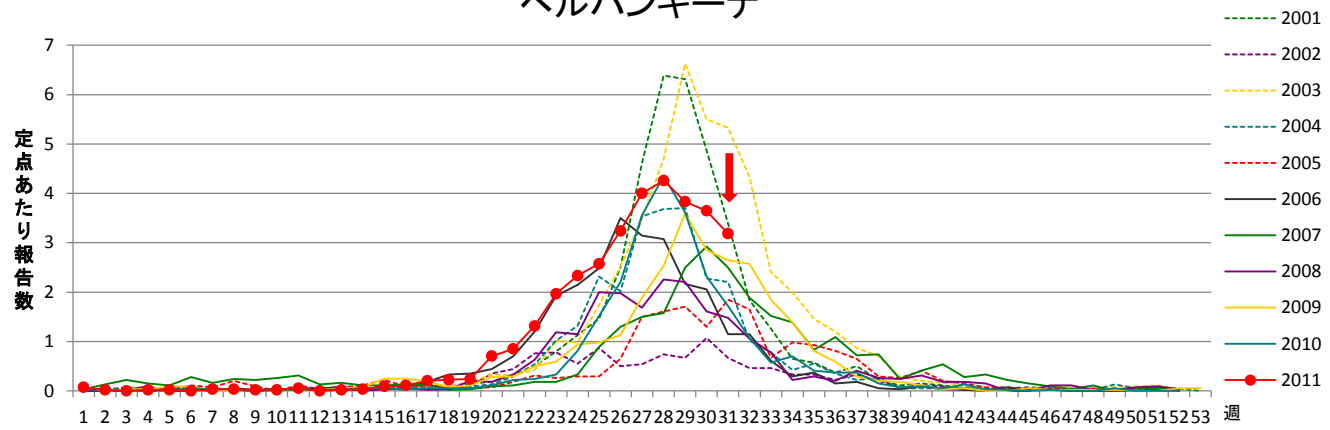
突発性発疹



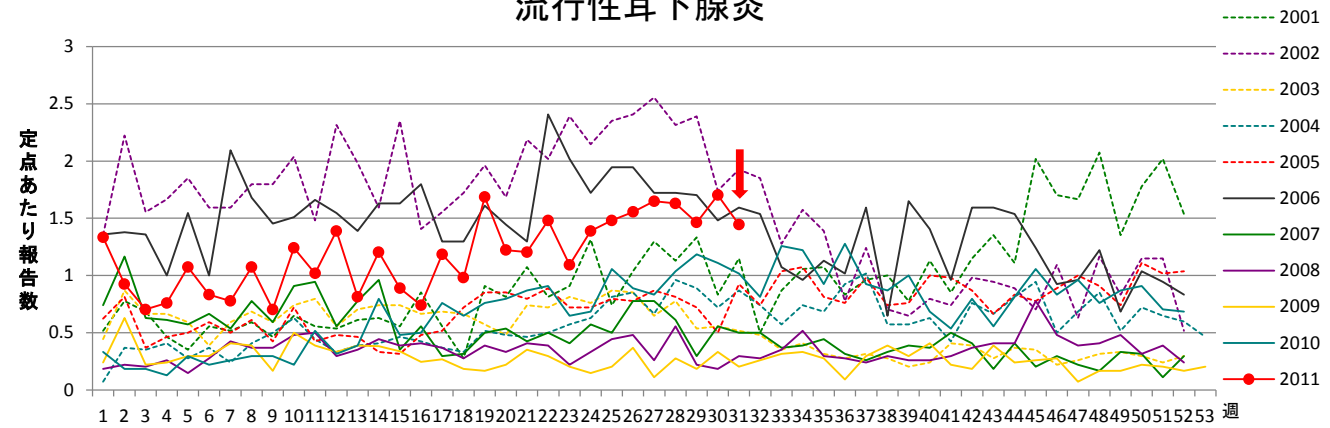
百日咳



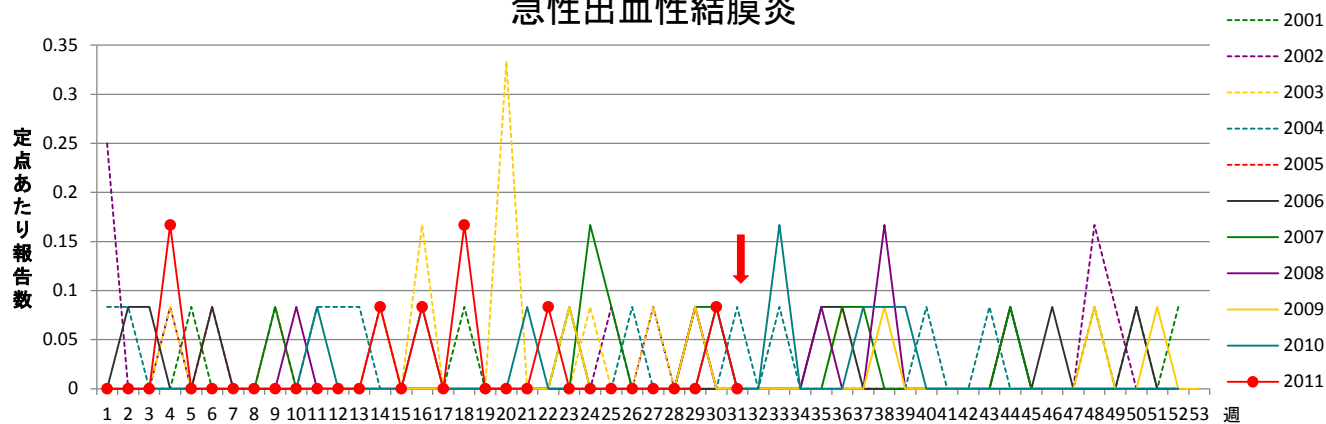
ヘルパンギーナ



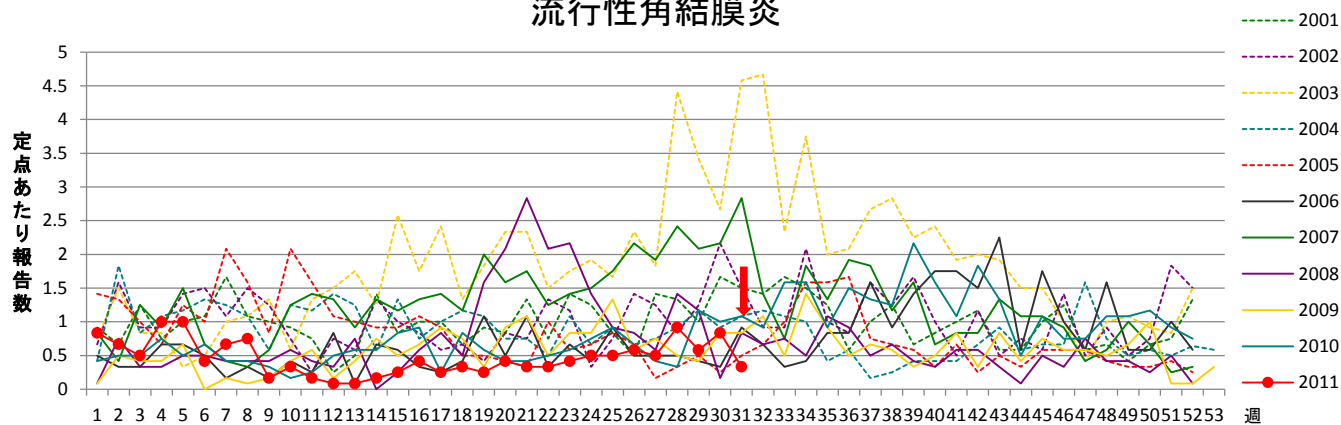
流行性耳下腺炎



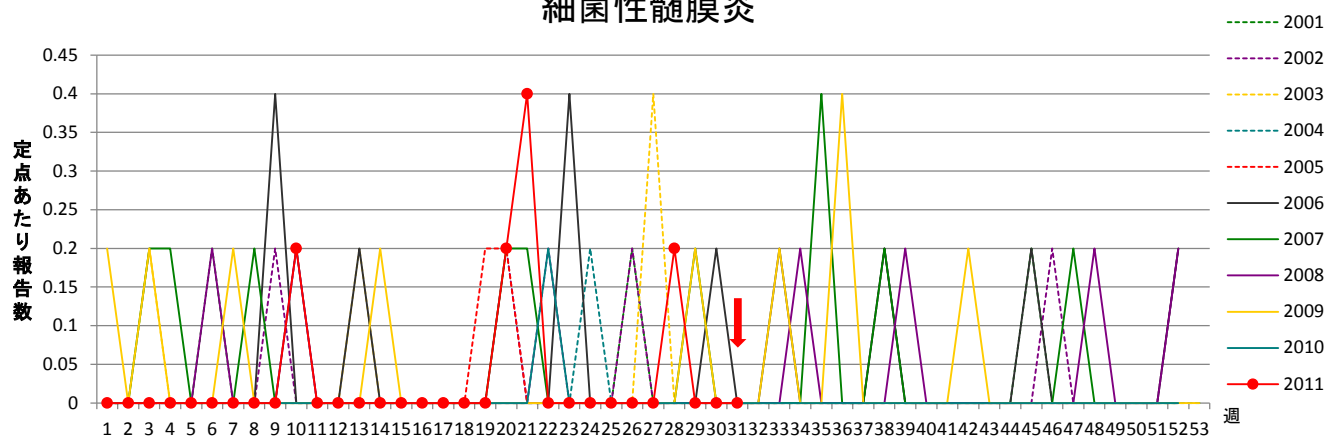
急性出血性結膜炎



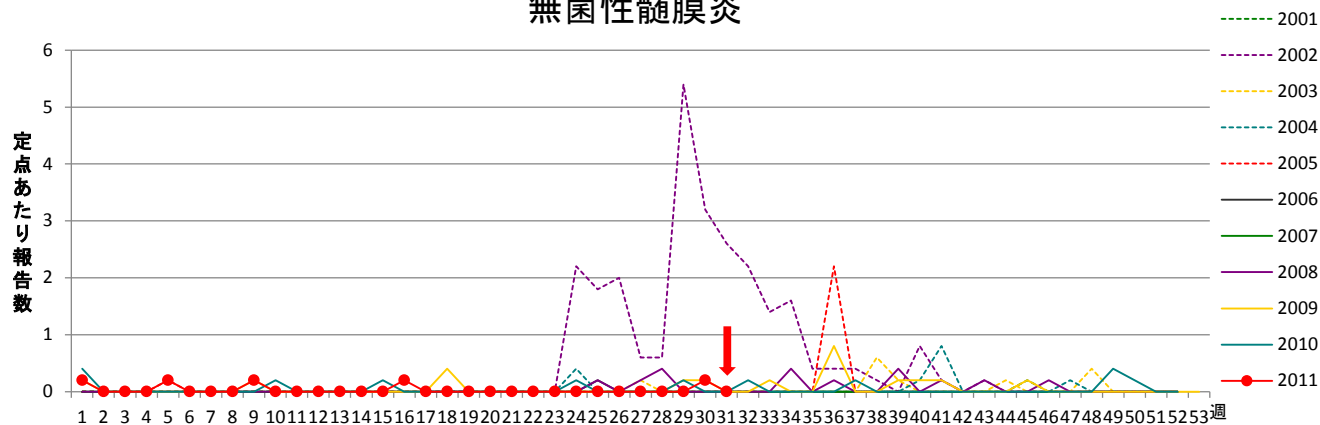
流行性角結膜炎



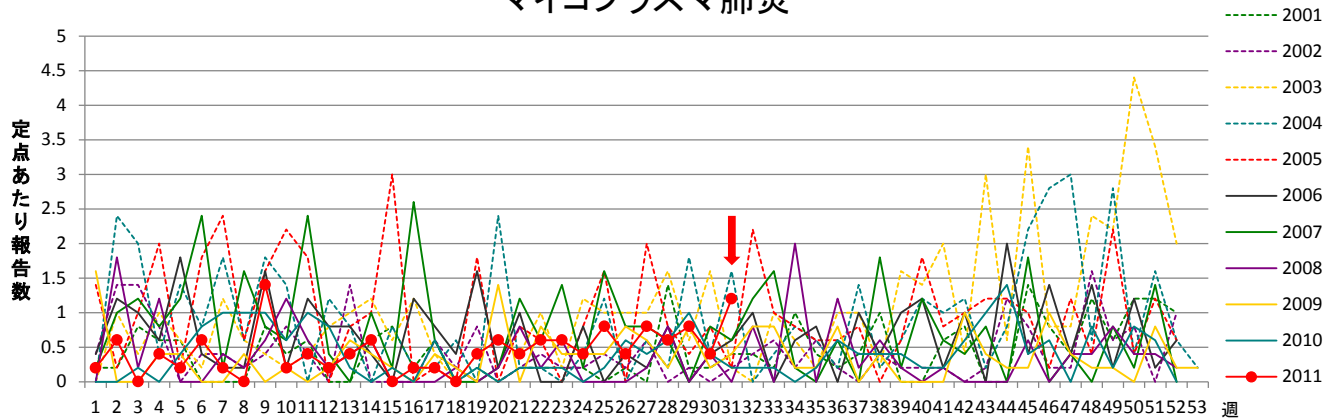
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

